

31.

プリントアウトした請求票は、所蔵部署階のカウンターにお持ちください

2011年01月13日 11:56:55

2011年01月13日 11:56:56

入館証番号:

入館証番号:

Call Slip

<請求票>

<請求票>(控)

Call Slip

292.2
5050
1939

書名
資料名: 北支風土記
巻次:
著者名: 向井潤吉//著
出版者: 大東出版社
出版年: 1939.7
大きさ: 20cm
頁数: 290p

資料名: 北支風土記
巻次:
著者名: 向井潤吉//著
出版者: 大東出版社 頁数: 290p
大きさ: 20cm 出版年: 1939.7

切り取り

所蔵館 : 中央
所蔵部署 : 1階資料お渡し・返却カウンター

所蔵館 : 中央
所蔵部署 : 1階資料お渡し・返却カウンター
配置場所 : 1/75A 中)MB2書庫A
資料ID : 5001817355

請求記号
292.2
5050
1939

配置場所 : 1/75A 中)MB2書庫A
資料ID : 5001817355

一社人自東新	力	事
↓		
一社人自東新	請求	報告
MB1 マイロ	B1 アルファベット	原紙 縮刷
MB2 マイロ	B2 洋	中 朝
行 1F	B1	B2
多 兎 青	1F	B1 B2

序文
目次
本文 262~269

北支圖上院

證明書

以上が僕の北支行の全内容を説明する唯一のものである。
その後、再び機を得て上海に渡り、更に南京、蘇州、杭州へと足を伸ばした

右ハ北支前線ニ於ケル皇軍ノ活躍状況ヲスケッチシ コレヲ廣ク國民ニ紹介スル目的ヲ持ツテ渡支スル者ナル事ヲ證ス

二科會會員 向井 潤吉

街の印象 六
 東安市場 三〇
 洋車夫 四四
 支那服 五九

通州城内所見

..... 四

名所二三

北京の公園 五五
 紫金城 六〇
 萬壽山 六四

京包線

南口鎮の柿 六八
 居庸關の秋 七九

八達嶺

..... 八五

内蒙風趣

内蒙地帯 九四
 張家口の宿 一〇〇
 張家口の印象 一〇二
 澡堂子 一〇三
 萬全縣城 一〇五

大同に入る

線路傍の墓標 一〇四
 東魏門 一〇六
 西門附近 一〇三
 北門 一〇五
 宿舎 一〇七

連絡員の話……………一四

前線日記

十月二十五日……………一五
十月二十六日……………一六
十月二十七日……………一七
十月二十九日……………一八

綏遠への旅

沿線……………一九
綏遠城内……………二〇
徳王に謁見……………二一
歸化城……………二二

古玩舗と平康里

好奇と獵奇……………二〇

古玩舗……………二〇

大同美人……………二二

京

漢

線

宣撫傳單……………二六

保定繁昌記……………二七

石家莊……………二七

難民列車その他

避難民……………二九

負傷鐵道員……………三〇

宣撫班員……………三〇

呑氣な話

繪文 北支風土記

挿畫五十葉・裝幀 著者自畫自裝

從軍後記

後備隨軍歩兵上等兵…………… 三六

從軍のよほひ…………… 三〇

見果てぬ追憶…………… 二五

從軍の收獲…………… 二六

車夫二題…………… 三六

支那人と洋畫…………… 三三

蟲…………… 三〇

つて待つてゐると、二三言葉のやりとりの末、僕の洋車
車夫は肉懐ろから汚ない紙幣を惜しさうに出して渡した
のだ。對手の車夫は尙も何か饒舌りつづけると、こつち
の車夫は又諦めたやうに別の所から小さく疊んだ紙幣を
とり出すのである。不覺にも借金を取立てに逢つたらし
いのだが、對手の不承服を見ると、金をとり出す個所が

あちらにもこちらにもあるのには、恰度一枚の風呂敷か
ら幾つも卵を出す手品を見るやうで感嘆した。
やがて、車夫は指定の場所まで僕を運ぶと、さして選
方でもなく、又疲れても居ないのに、大仰に肩で呼吸を
し始め、出もせぬ汗を煮干めたやうな手拭で拭き出した。
先刻とられた金の穴埋を僕にさす氣らしい。

ある日、南海公園へ寫生に出掛けた。
電車やタクシーや洋車で賑つてゐる正面の府前街の新
蕪門から一歩、園内に入ると、流石に入園料を取るだけ

支那人と洋畫

あつて、人通りも皆無と云つてよく、綺麗に掃除の行届
いた道が左右に分れてゐる。
東側を半回するつもりでしばらく歩いてゐると一かた
まりの住宅とも由緒ある樓閣とも見分けのつかぬ一廓に
出た。氣をつけて見るとそれぞれ、小さい亭や臺榭に
扁額や聯がかかつてゐて、三漣印月などと云ふ文字の散



一體に支那人と云ふものは、現在の世界の美術に就いて無知識が多い。と云ふよりも、さう云ふものに接する機会と機關に全く絶縁されて居る。殊に洋畫といふものは、極く一部分を除いては全然、知らないのではあるまいかと思ふ事がときどきある。道端などで畫架を据ゑると、忽ちの人だかりで、それも後に立つて見るの

なら未だしも、大抵はこちの描いてゐる側に同ひ合つてのぞき込むのだから厄介千萬である。チェーザから繪具が絞り出されて、それがベタベタと塗られるのが、譯もなく珍らしいだけで、むしろ描かれてゐる畫面よりは、描いてゐる僕の顔を、不思議さうに見續けてゐるのだが

ら、始末がわるい。

その鑑識眼を以て人物畫、乃至は肖像畫などを見るので、繪具の盛り上がった(顔)と云ふものは随分とドロテスクに感じるらしい。彼等にとつて美しい(顔)は花びらのやうに麗しく、玲瓏な肌理でなければ承知出来な
い譯で、重さや厚みやを表はすために塗り重ねられた繪具の層は、そのままの粗い皮膚の凸凹でしか無く、光線

や陰影を説明するため施された暗い部分は、アザ、或ひは汚點として視覚に映するものが、彼等の常識である。そして、距離すら否定しようとするのが大半の好みで、よく街頭などで煙草のボスマンなどが賣られてゐるのも、汚ない油繪の凸凹美人よりも、美しい平面の佳人の方が好い、とする所に彼等の心理がうかがへて面白いのであ

る。
しかしさうした文化的な段階も追々と開放され進歩して、近い將來には、その生活の中に、新しい美が持ち込まれる事と信じて疑はない。支那へ渡る畫家は、支那を描くと同時に、支那に生きた美を注入する、責任を持つべきではあるまいか。武力以外に日本の文化文物が如

何に支那よりは優秀なものであるか、弘法さん以來の借金のない返済時期である。

蟲

僕は支那へ行く用意の第一に、南京蟲を退散する藥を調へるのを忘れなかつた。

然し兩度の支那旅行では、遂にその一匹にもお目にか